



関西学院同窓会 大阪支部

INTERVIEW

<http://www.kwangaku-osaka.org>

2016.09

探訪記

FILE

No.13



千島土地株式会社 代表取締役会長
芝川 又美 (しばかわ・またよし) 氏

千島土地株式会社

代表取締役会長

芝川 又美氏

昭和45(1970)年 関西学院大学 文学部日本文学科 卒業

めんどろくさくさくなったり、マンネリになったり…

そのたびに生徒の真剣な眼差しに励まされた

—— 関学に進学できたきっかけを教えてください。

自宅の近所に関学があり、子供の頃の遊び場でとても身近な存在でした。また、自宅の別棟に関学の学生が下宿していました。小さい頃、よく遊んでもらって、大好きなお兄さんたちでした。そんなお兄さんへのあこがれもあり、関学にいきたいと思うようになりました。

—— 関学は中学部から進学されたのですか？

そうです。私の学年は、ベビーブームで受験倍率は5.2倍もありました。たぶん史上最高だと思います。それ以来、中学部から、高等部、大学院、そして高等部の教師として、12歳から65歳まで、50年以上関学にはお世話になりました。もう人生のすべてが関学といってもいいくらいです。

—— 中学部の頃の思い出を教えてください。

当時、矢内正一先生が中学部長をされていました。素晴らしい先生で、全身で少年達の魂に語りかける姿に憧れました。高等部には個性的な先生がたくさんおられて、教育の可能性の広さと深さを実感し、この頃から教師になりたいと思うようになりました。また、本を読むのが大好きだったので、国語の教師をめざしました。

—— 大学時代はいかがでしたか？

国語の教師をめざして、文学部に進学しましたが、実は、音楽バンドを組んで、バンド一色の学生生活を送りました。学園紛争で学校が封鎖され、半年間、授業がなかったの

思う存分、バンド活動に時間を費やせたのです。ヤマハの音楽コンテストのフォーク部門で優勝し、ダボーズというグループ名でレコードデビューもしました。当業活動をしたり、コンサートをしたり…。これも、授業がなかったからできたことです。

—— ダボーズの皆さんの中で、プロになられた方はおられますか？

いえ、他のメンバーは、卒業すると就職しました。プロの世界では通用しないと思っていたので、それが

当然だと思っていました。でも、私たちが入賞した翌年のそのコンテストには、赤い鳥やオフォースなど、今も音楽家として活躍されている有名人がたくさん出場していました。私は、教師をめざして大学院に進学しました。

—— 高等部の教師になられたきっかけを教えてください。

大学院の最終学年になり、そろそろ就職活動をしなくては思っていた矢先、高等部の国語の先生が1学期末で退職され、欠員ができました。その際に、誘っていただいたのがきっかけです。定年前に、また学年の途中で退職されることは非常に珍しいことなので、関学との縁を強く感じました。

—— では、学年の途中から、高等部の国語教師になられたのですか？

そうです。2学期から着任しました。さらに珍しいことですが、野球部の顧問の先生も1学期で退職されたので、引き継いで、野球部の部長を務めることになりました。

—— 野球部の部長時代の思い出をお聞かせください。

1998年春の選抜、2009年夏の甲子園と2回も甲子園に連れて行ってもらいました。これは、最高の思い出です。グラウンドにでた瞬間、どよめきのような声援が聞こえてきます。ふと見ると、甲子園を埋め尽くすような関学の応援団でした。夏の大会では1勝して、校歌を歌うこともできませんでした。本当に幸せな経験でした。甲子園のベンチに入ったミュージシャンは私だけかもしれません。



です。「もっとできる」とがあったのではないか？」と悔むことは多くありました。でも、そんな生徒が、卒業後何年か経って、立派に成長していたり、家族をもって幸せになっていた、そんな姿に再会できることは、嬉しいことです。

——国語の教師をされていたというんですが、特に好きな分野・テーマがあれば教えてください。

最初の頃はそうでもなかったのですが、後半は、古典を教えるのが好きになりました。幸いなことに、関西学院大学への進学には大学受験がないので、文法などを暗記させる必要はありません。歴史はずっとつながっている。この言葉は、なぜ、こう変わったのか？という現代につながっているのか？、といったことを生徒と学びました。また、伊勢物語や源氏物語などの恋愛ロマンもよく取り上げました。時代は変わっても人は変わらない。古典は、時代をワープすることができるほんとうに面白い教科だと思います。

——教師として、生徒に必ず話されていた言葉はありますか？

最後の授業では、必ず歌を贈ることにしていました。さまざまの「主人公」という曲です。曲中に、「自分の人生の中では、誰もがみな主人公」という歌詞があります。

一人ひとり、誰もが、意味と役割を持っています。時には他人と比べて落ち込んだり、思った通りできなくて挫折をしたりします。でも、自分が

その役割を果たしているからこそ、社会や周囲がうまく回ります。活躍できる人はすばらしいですが、そんな一部の人だけで、世の中は成り立ちません。どんなポジションであっても、その場所で頑張ることはとても素晴らしいことです。大切なことは出世や金銭だけではありません。自分の役割を見つけて、その役割を果たすことこそが大切なのです。

——最後に、若い関学のOB・OGへのメッセージをお願いします。

私は「Variety in unity」という言葉が好きです。多様性が融和や協調を作り出す、そして、真の統一は多様性を許容する、といった意味でしょうか。聖書の中に、「体の各部分には一つも不要なものがない」という言葉があります。それをたとえにして、「この世の中に不要なものは一つもない、不要な人は一人もない」ということを教えています。いろんな役割の人が社会には必要だということです。誰もあなたの人生を代わりに生きることはいけません、あなたの人生の主人公はあなたです。そのことを、ぜひ、胸に刻んでほしいと思います。

2016年8月2日

場所：千島土地株式会社内にて収録

取材：伊賀真理／松越 増田隆光

岡田徹哉 関学支部／橋村裕樹 関学支部

2013年3月 邊
2013年4月より 千島土地株式会社 代表取締役会長

編集後記

芝川先輩といえば、文化財でもある「芝川ビル」私もしばしばフジテレビにおじゃましますが、今回は教員時代のお話をたっぷり伺うことができました。時代を一つ一つつなげていく。古典とはタイナミツクな科目だったのです。最後の授業でお伝えになるといって、誰もがみな主人公といつし。自分の役割を見つけて、その役割を果たすことこそが大切。まさに関学人として意識すべきテーマですね。

編集室長 小島圭保（1995年法学部政治学科卒）

——では、反対に「教師としての人生」を振り返ることはありますか？

学校とはすごいところだと思います。同じ場所にいるのに、毎年、違う生徒が入学してきて、毎年、違う風が吹きます。これは、とても刺激的なことだと思います。今年はずっとも翌年には通用しない。自分自身も成長しなければいけません。ときには、面倒くさくなったり、マンネリになったりということもありました。そのたびに、生徒の真剣なまなざしに励まされて、気持ちを新たにしました。

——教師という仕事の魅力について教えてください。

全ての人が思い通りの進路に進めるわけではありませんが、例えば、高等部から大学への推薦がもらえない生徒もいます。それを生徒と保護者の方に伝えなければいけません。非常につらいこと

芝川 又美（しばかわ・またよし）氏
千島土地株式会社 代表取締役会長

1963年 関西学院中等部 卒業

1966年 関西学院高等部 卒業

1970年 関西学院大学 文学部日本文学科卒業

同大学院卒

1971年 関西学院高等部 国語非常勤講師

1975年 関西学院高等部 国語教諭